



2010年度 紙パック回収率

2010年度の紙パック回収率は
43.6%と微増にとどまりました。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2011年も6月～10月に実施され、2010年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2010年度は猛暑の影響もあり、自販機や店舗向けの紙パック出荷量が増加し、店舗などからの回収量も増加しました。家庭向けの出荷量もやや増加しましたが、回収量は減少しました。また、出荷量の増加により産業損紙の回収量も増加しました。これらの結果、紙パック全体の回収率は43.6%（前年度比で0.1ポイント増）、使用済み紙パックの回収率は前年度と同じになりました。

※2010年度の調査では、紙パックメーカー 9社・飲料メーカー 319社・1,719市町村・小学校 2,139校・スーパーマーケット 920社・市民団体および福祉作業所 6カ所・再生紙メーカー 32社をアンケート調査対象に、また4カ所をヒアリング調査対象としました。なお、震災により、従来通りの基本調査が一部の地域でできませんでした。
※紙パック製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

2010年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

43.6%

(2009年度 43.5%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=107.6千t / 246.8千t

使用済み紙パック回収率
(使用された紙パック)

33.0%

(2009年度 33.0%)

=使用済み紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=68.4千t / 207.3千t

自治体の紙パック取引価格は
再び上昇しました。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高価で取引されています。

ただ、市町村の紙パックの取引価格は、市町村ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは、紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかない市町村を対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて集計しました。また、集団回収も同様に集計しました。

前年度に経済不況の影響などで下がった取引価格は、2010年度はおおむね1～2円/kg上昇しました。市町村回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙直納問屋で、引渡価格と持込価格のどちらも上昇しました。取引価格は再び上昇に転じたといえるでしょう。

紙パック古紙の平均取引価格

年度			2007	2008	2009	2010
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.7	8.5	6.2	7.5
		持込価格	7.3	7.8	5.4	6.9
	古紙直納問屋	引渡価格	9.3	9.3	7.0	8.9
		持込価格	8.4	9.4	7.0	8.0
集団回収	製紙メーカー	引渡価格	9.4	11.9	8.8	12.3
		持込価格	9.4	9.7	8.0	10.2
	(取引先不問)	引渡価格	5.0	5.6	4.3	5.2
		持込価格	6.4	5.8	6.9	5.1

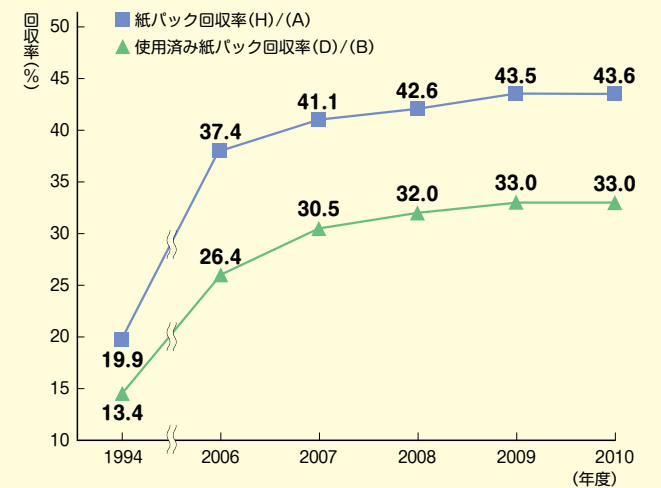
(円/kg)

紙パック回収量は
1.4千トン増加しました。

右の図のように調査開始以来、紙パックの回収率は着実に伸長しています。回収量や回収率の詳細は下の表です。

2010年度の国内紙パック回収量は全体で107.6千トンと、前年度に比べて1.4千トン(1.3%)の増加でした。紙パックメーカーの出荷量増加による産業損紙の回収量と、使用済み紙パックのうち、店舗や自販機(自販機等)からの回収量が増えました。店舗などからの回収も広がっていることがうかがえます。

紙パック回収率の推移



主要データの推移 (千トン)

区 分	1994年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
紙パック原紙使用量(A)	216.0	257.8	255.9	251.0	244.3	246.8	1.0%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	36.9	36.6	37.1	35.9	37.3	3.9%
飲料メーカー産業損紙発生量	—	3.2	3.6	3.0	2.6	2.1	−18.5%
飲料メーカー紙パック出荷量(B)	197.9	216.8	215.7	210.9	205.8	207.3	0.7%
家庭系(C)	168.7	191.2	194.1	189.3	184.3	184.6	0.2%
自販機等(事業系)	18.5	13.5	9.9	9.8	9.7	10.8	11.3%
学乳(事業系)	10.7	12.0	11.7	11.8	11.8	11.8	0.1%
使用済み紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	57.1	65.8	67.4	68.0	68.4	0.5%
家庭系回収量(E)	25.9	48.1	55.6	56.7	57.3	56.6	−1.3%
店頭回収量	13.8	24.4	31.8	33.4	34.5	33.6	−2.6%
市町村回収量	4.3	13.6	14.4	14.4	13.9	14.1	1.1%
集団回収量	7.8	10.1	9.4	8.9	8.9	8.9	0.3%
事業系回収量(F)	0.6	9.0	10.2	10.7	10.7	11.8	10.2%
学乳紙パック回収量	0.6	8.4	8.8	9.3	9.3	9.4	1.4%
自販機・飲食店等	—	0.6	1.3	1.4	1.4	2.3	69.1%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	39.2	39.4	39.7	38.2	39.3	2.7%
紙パックメーカー回収量	16.5	36.9	36.6	37.1	35.9	37.3	3.9%
飲料メーカー回収量	—	2.3	2.9	2.6	2.3	1.9	−16.0%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	96.4	105.2	107.1	106.2	107.6	1.3%
紙パック古紙輸入量	—	10.3	12.3	13.9	10.9	12.7	16.7%
紙パック総受入量	43.0	106.7	117.5	120.9	117.1	120.3	2.8%
紙パック再資源化量	30.1	80.2	89.2	93.8	93.2	96.3	3.4%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	37.4%	41.1%	42.6%	43.5%	43.6%	0.1ポイント
使用済み紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	26.4%	30.5%	32.0%	33.0%	33.0%	±0.0ポイント
家庭系使用済み紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	25.2%	28.7%	30.0%	31.1%	30.6%	−0.5ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケート調査により求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。

※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

※単位：千トン
※()内は2009年度との差です。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

